

2050年に向けた「ふじおか5つのゼロ宣言」実現プラン (令和6年度版)



宣言1 自然災害による死者「ゼロ」(気候変動への「適応策」)

藤岡市の強靱化とともに、市民の防災意識を高め、自然災害による死者をゼロにする

取組	施策	内容
1 気候変動適応策の推進	① 気候変動適応策の検討、適応センター利用の推進	○気候変動・適応に関する情報の収集・分析・発信・取組の検討 ○地域気候変動適応センターの積極的な活用 【新】○市内クールシェアスポットの拡充
2 「災害レジリエンスNo.1」の実現に向けた防災・減災対策	① 地域防災計画・都市計画マスタープラン・立地適正化計画・道路整備基本計画の推進 ハード・ソフトが一体となった防災・減災対策の加速	○水害対策 ○土砂災害対策 ○道路防災
	② 藤岡市国土強靱化地域計画に基づく施策の推進	○藤岡市国土強靱化地域計画に基づき、各担当課において施策を推進
3 市民の「自らの命は自らが守る」という防災意識の徹底	① 国、県をはじめとした関係機関との連携	○国や県等の関係機関との連携による図上訓練等の実施 ○地域住民や災害協定締結先の民間事業者等との連携による避難所運営訓練等の実施 ○各地区のハザードに配慮した地区別避難行動計画の作成支援 ○マイタイムラインの普及促進 ○地域防災の要である消防団員の育成 ○地域防災アドバイザーの養成・活用
	② 市民への情報提供・意識の醸成	○防災情報の発信チャンネルの多重化(群馬テレビのデータ放送利用ほか)
4 学校の取組	① 社会科や理科の学習等で、自然災害に係る教育の実施	○自然災害から国土を保全し国民生活を守るために、国や県、市等が行っている対策等の学習

宣言2 温室効果ガス排出量「ゼロ」(気候変動への「緩和策」)

日照時間の長さや豊富な水資源・森林資源など本市の恵まれた再生可能エネルギー資源を最大限に活用して温室効果ガスの排出量を実質ゼロにする

◎2050年ゼロカーボンシティ表明(令和2年2月)

宣言3 災害時の停電「ゼロ」

エネルギーの自立・分散化(地産地消)により、災害時にも電力供給を継続する。さらに、地域外への富(電気代)の流出をなくし、地域内で資金循環させる

取組	施策	内容
1 地球温暖化対策の推進	① 各種計画に基づく施策の推進	○環境基本計画、地球温暖化対策実行計画及び地域再生可能エネルギー導入計画に基づく施策を推進
	② 市有施設等の省エネ化の推進	○省エネ改修(LED化など)・ESCO事業の推進 ○新規施設のZEB化の推進 ○市有施設のLED化に向けた計画的な改修 【新】○職場ごとの湯沸かしの集約化、マイボトル推奨 【新】○休日出勤時のシェアワークスペースの導入の検討 【新】○庁用車使用の抑制(事務の電子化・会議のオンライン化)
	③ 事業者・市民への情報提供、企業行動・ライフスタイル変革	○エコスタイル(省エネ・省資源・スマートムーブ)の推進 ○省エネ・省資源に関する意識啓発(セミナー・出前講座・広報誌・配信) ○5R推進による廃棄物削減 ○環境マネジメントシステム(エコアクション21、県の環境GS認定制度)の普及促進
2 森林吸収源対策の取組	① 森林整備の加速化	○経営管理制度による健全な森林整備の促進 ○市産材の利用促進など森林を支える仕組みづくりの検討 ○他自治体や企業と連携した市内森林の整備
3 再生可能エネルギーの推進・電力供給の維持	① 【新】再生可能エネルギーの導入促進	○住宅用再生可能エネルギー設備等設置費補助事業推進 ○地域における再生可能エネルギーポテンシャルに基づいた導入の検討 ○市有施設への再生可能エネルギー設備の積極的導入 ○市有施設への再生可能エネルギー100%(RE100)電気の導入研究 【新】○再生可能エネルギーに関する情報発信、普及促進
	② 地域における自立分散型電源の普及促進	○市有施設・避難所等の自家消費用の太陽光発電設備、蓄電システムの活用 ○V2H設置に対する補助金制度普及促進 ○地域マイクログリッド構築に向けた調査研究
4 次世代自動車の普及促進	① 電気・水素自動車の導入及び普及啓発	○電気・水素自動車の普及啓発活動実施 ○庁用電気自動車の積極的導入、災害時は電源として活用 ○市内イベントでの運営車両として導入検討 【新】○充電設備の改修・更新・増加による充電場所の確保の検討
5 学校の取組	① 理科や技術・家庭科の学習で発電の技術や利用の仕方に関する教育の実施	○発電や電気エネルギーの有効利用に関する技術や社会が環境等に相互に影響し合う関係にあること等の学習
	② 理科等の学習で森林の活用に関する教育の実施	○光合成等により森林資源が環境に与える良い影響や、持続可能な森林資源の活用や取組等の学習

宣言4 プラスチックごみ「ゼロ」

環境中に排出されるプラスチックごみをなくす

取組	施策	内容
1 市によるプラスチックごみ削減対策の推進	① 市独自の対策、率先実行	○清掃センターの新設・改修等の計画に合わせて、更なるプラスチックごみ削減 【新】○市有施設へのリサイクルBOX設置 【新】○イベント時における資源ごみ回収コーナーの設置 【新】○リサイクル素材を活用した市のポロシャツ・ワークウェアの導入 【新】○市が調達する啓発物品等の個包装・プラスチックの原則不使用 【新】○市内におけるスポーツ+ごみ拾いイベントの開催
	② プラスチック資源循環促進法に基づいたプラスチック資源の分別収集の推進	○プラスチックごみに関する情報収集・分析・発信 ○家庭ごみ分別方法の周知・徹底による資源ごみ収集の向上 ○ごみ分別アプリ等を活用したごみの分別についての周知啓発 ○資源集団回収事業の推進 【新】○ボトル to ボトルの推進 【新】○分別収集実施店舗の拡大
	③ マイボトル・リユース食器の活用、再生プラスチックへの転換	○会議等での飲料をペットボトルからマイボトルに転換 ○環境イベント・ランニングイベント等でのリユース食器使用 ○市有施設への給水スタンドの設置(マイボトル利用促進) ○グリーン購入基本方針に基づく再生プラスチック製品の購入の推進 ○調達するプラスチック製品全般を生分解性プラスチック・木製品等に転換
2 事業者・市民の取組推進	① 企業・農業者への技術支援・経営支援	○新技術・新製品等の研究開発・事業展開 ○セミナー・経営相談・専門家派遣
	② 小売店・飲食店の取組支援	○マイバッグ・マイボトルの推奨 ○プラスチックストロー・スプーン類、レジ袋の削減 ○紙やエコ素材でできた容器・ストロー等の利用促進
	③ 先進的取組の掘り起こし・横展開	○優れた取組を群馬県環境賞(5ゼロ実現貢献賞)・ぐんぎん財団環境賞等に推薦
	④ 市民の5Rの徹底	○環境にやさしい買い物スタイルの実践(マイバッグ持参、簡易包装商品・リサイクル商品の購入など) ○ふじおか5R宣言、5Rの周知
3 学校の取組	① 社会科等の学習で資源ごみの処理に係る取組についての教育の実施	○廃棄物の衛生的な処理や資源の有効利用による、生活環境の維持と向上に寄与する施設や人々の働きについての学習 ○リサイクルプラザや市内リユース工場の見学等を行い、リサイクルに対する理解を深める学習

宣言5 食品ロス「ゼロ」

「MOTTAINAI」(もったいない)の心で食品ロスをなくす

取組	施策	内容
1 市による食品ロス削減・食品リサイクルの推進	① 「MOTTAINAI」運動の実践・推進	○県の実施する食べきり協力店(小盛、ハーフサイズ等の設定協力)の増加促進 ○3きり運動、3010運動、5Rの普及啓発 ○食品ロス実態調査結果に基づく施策の検討 ○環境イベント等への参加 【新】○食品ロス削減に関する情報発信
	② 学校給食の食品ロス削減	○献立の工夫による喫食率の向上 ○生産から消費までの食物の循環や、環境問題を意識した食育の推進
	③ フードバンクの運営・子ども食堂の支援	○フードドライブの普及推進(職員向け、イベント活用など) ○フードバンクから要支援者への提供の推進 ○フードバンクによる食品提供者と子ども食堂とのマッチング ○提供可能な備蓄食料品等をフードバンクや子ども食堂へ提供
2 事業者・市民の取組推進	① 「MOTTAINAI」運動の実践	○県の実施する食べきり協力店(小盛、ハーフサイズ等の設定協力)の開拓 ○事業者の先進的取組の掘り起こし・横展開 ○規格外品・賞味期限が近い商品の販売の事例調査・研究、実施主体の掘り起こし ○食品ロス削減に係る取組(食品管理、ローリングストック、堆肥化)推進 ○商品棚「てまえどり」の推進 ○3きり運動、3010運動、5Rなどの推進 【新】○ダンボールコンポストを用いて堆肥化することによる生ごみの減量と意識啓発
	② 企業・農業者への技術支援・経営支援	○新技術・新製品等の研究開発・事業展開 ○セミナー・経営相談・専門家派遣
	③ フードバンク・子ども食堂への協力・支援	○企業によるフードドライブの推進 ○市民によるフードバンクへの協力呼びかけ
3 学校の取組	① 社会科や家庭科等の学習で食生活に係る教育の実施	○日本の食品ロスや食料自給率の現状を調べ、食糧生産の問題を考える学習 ○食材の無駄を出さない調理実習 ○野菜を栽培し、食糧生産について考える学習